

新年号

酪農

とちぎ



迎春

謹んで

新春のお慶びを

申し上げます

明けましておめでとう

ございます。皆様方には、

お健やかに新年をお迎え

になられたことと心から

お慶び申し上げます。

この一年の皆様のご健

康と、ご多幸を心よりお

祈り申し上げます。



新年の挨拶

代表理事組合長 菊池 一郎



組合員ならびにご家族の皆様方におかれましては、輝かしい新春を迎えられたことと謹んでお慶び申し上げます。また、日頃より本組合の事業運営につきまして、特段なるご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

自公連立政権から民主党を中心とする三党連立政権へと政治は動き、潮目が変わるごとく国政が変化しております。特に農業における戸別所得補償制度の輪郭が徐々に示されてきてはおりますが、国内外の経済状況に影響を受けやすい酪農・畜産にとって、国民的合意が得られる内容として実効性ある政策であるかどうか、その展開

手法に多くの関係者が関心を寄せているところです。

日本酪農の将来像を思い、この先五年、十年、その先を展望するとき、持続ある産業として生乳の安定供給の使命を果たしていくためには、地域に根ざした生乳生産基盤の更なる強化は不可欠な要素であります。しかしながら、一昨年来の飼料高騰等による構造的な経営悪化から抜け出し、自給飼料増産に向けた気運が高まりつつある中、一般の酪農を取り巻く情勢は生乳需給の緩和が一段と進み、減産型生乳計画生産へ再び回帰せざるを得ない様相に変化してまいりました。

これら酪農の抱える生乳需給問題を将来にわたって如何に克服していくかが酪農・乳業共通の重要課題であり、需給調整リスクを最小化する政策対応こそが我々が真に望むものであり、生乳需給の柔軟な対応方策なくして次世代になく日本酪農の将来像は描ききれないと思慮し痛感するところです。

さて、国内はデフレ経済の進行が懸念される中において消費者の財布のひもは固くなるばかりであり、牛乳乳製品の低価格志向、牛乳消費の減退は酪農・乳業にとって決して好ましいことではありません。

牛乳消費の落ち込みから特定乳製品向けの加工処理が増え続け、需の低迷と相まってバター・脱脂粉乳の在庫は適正水準を越え、生乳計画生産は急速に緊迫した状況となり、来年度にむけた検討が進められているところです。そんな中、年末年始にかけて処理不可能乳の発生を回避するため、皆様方にご協力いただき全乳哺育による出荷抑制を実施するに至りました。今後とも、中央酪農会議や関東生乳販連に対しリアルタイムでの生乳需給状況の情報発信を要請しつつ、個々の経営が出荷抑制時に柔軟に対応できるような需給調整機能の強化を求め、速やかな機関決定等により需給対応が円滑に進むよう提言してまいります。なお、来年度の組合計画生産については上部団体から示される方針や目標数量に基づき、個々の経営リスクが最小になるよう配慮しながら実施要領等を定めてまいります。

組合は総代会制を廃止し総会制へ移行しますが、組合運営に目を向けていただく機会は増えています。それらを考え合わせ、昨

年十二月に支所別地域説明会を前倒しする形で開催させていただきました。本年度についてはほぼ計画どおり事業展開していく見通しではありますが、生乳需給対応が当面の課題となっております。

そこで、組合では早い時期での生産予測とその精度を高め、来年度の生乳計画生産の検討に資するべく、例年より二ヶ月早い乳牛飼養動態調査をお願いいたしました。それらをもとに組合の生乳計画生産について実施要領等を決定し、早い時期に内容をお示し、個々の乳量申告をお願いしていくこととなります。

また、来年度の乳代精算より乳代手数料方式の導入と事業賦課金の設定を行うこととなりますが、組合運営の可視化を促進し組合員はもとより関係団体等にも理解を求めながら、支払い乳価の最大化と支援サービスの最適化を目標に皆様方に対する最大奉仕に努めてまいります。

「一燈を提げて暗夜を行く。暗夜を憂うることなかれ。ただ一燈を頼め。」という先人の言葉があります。今後とも本組合が関係各位のご指導ご協力を賜りながら、皆様方に対する燈（あかり）となるよう役員一丸となって邁進していくことをお誓い申し上げます。新春の挨拶と致します。



知事挨拶

栃木県知事 福田 富一



酪農とちぎ農業協同組合の組合員、役職員の皆様、あけましておめでとうございます。

早いもので、私が知事に就任してから五年余が経過いたしました。この間、私は、二気力で活力ある“とちぎ”づくりを目指し、対話と協調による県民中心、市町村重視の県政運営を基本として、各種施策を積極的に推進して参りました。

昨年は、当面の最重要課題であります経済・雇用対策に全力で取り組みましたほか、地域医療の確

保、通学路の歩道整備や道路の冠水対策、災害時の拠点となる県有施設や県立学校などの耐震化対策など、安全・安心への備えを進めました。また、「有名有力県」への取組といたしまして、牛乳、そば、あゆなど魅力ある地域資源を活用した「食の街道」づくりの推進や、「いちご情報館」の整備、「マルシェ栃木」の設置などにより“とちぎブランド”の創造と発信に努めて参りました。酪農につきましても、牛群検定の推進、乳製品づくり研修会の開催、各種メディアやイベントを活用した牛乳・乳製品のPR等を行って参りました。

しかしながら、本県経済は、引き続き厳しい状況が続いています。また、申し上げるまでもなく、人口減少社会の到来、経済のグロー

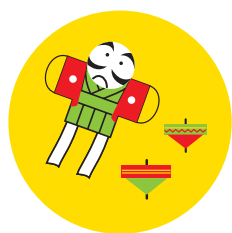
バル化、高度情報化の進展や地球環境問題の深刻化など、私たちが取り巻く社会経済情勢は大きく変化しています。さらに、本県財政は、財政調整的基金が今年度末には三十億円にまで減少し、今後毎年度三百億円を超える財源不足が見込まれるなど、かつて経験したことのない、極めて厳しい状況にあります。

こうした状況にある中で、時代の潮流を的確に捉え、将来をしっかりと見据えた県政運営を行っていくことが極めて重要となっております。このため、昨年十月に策定した「とちぎ未来開拓プログラム」に基づき、内部努力の徹底、歳入の確保や行政経費の削減など行財政全般にわたる取組を進め、県政運営の土台となる財政基盤の立て直しを図りますとともに、「平成二十二年度政策経営基本方針」により、すべての活動の原動力となる「人づくり」を政策の基本に据え、「経済・雇用対策」、「協働による地域づくり」や「安心な地域社会の実現」といった課

題に重点的に取り組むなど、事業の選択と集中を図り、最終年度を迎える総合計画「とちぎ元気プラン」の総仕上げを図って参ります。酪農につきましても、牛乳消費の低迷により厳しい状況が続いておりますが、酪農家の皆様の御努力が報われるよう、今まで以上に、生産振興はもちろんのこと、牛乳・乳製品についての理解促進、消費拡大に努めて参りたいと考えております。

年の始めに当たり、私の所信を申し上げますとともに、本年が皆様にとって素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

平成二十二年一月



新年のあいさつ

青年部本部部长 相馬 義樹



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。部員、組合役職員の皆様には青年部活動に対し、格段のご協力とご指導を賜り、書を拝借し厚くお礼を申し上げます。

さて、乳価値上げが実現し、多少なりとも経営が良い方向に向かい始めた昨年でしたが、依然として低迷する生乳需給状況下、今後の生産体制が心配されるところです。昨年末、業界雑誌の座談会に出席し、他畜産業者（肉牛、豚、

鶏）と意見を交える機会がありました。共通して言えることは、消費者の皆様が安心安全な食品、製品を提供すること。そして自分たちの農場、仕事、作り出すモノに対し責任を持ち、その存在意義を社会に向け発信していくことなどでした。

酪農においては、いかにして牛乳を飲んでもらうか、飲んでもらうようにするかが重要な課題となっております。昨年、青年部では県内の保育園、小学校三ヶ所において搾乳体験車を使い、多くの子供達に直接、牛と触れ合える機会を設けました。子供達からの素直な質問や発言に四苦八苦しなごらも、牛乳のこと、牛のこと、酪農という仕事のことを伝えることが出来たと感じています。

我々青年部は混沌とする情勢の中、各事業を通して親睦を深め、若い力を結束して自分達に与えられた役割を担い、明るい酪農業界を願い活動して参ります。

最後になりましたが、青年部員、組合員ならびに、組合役職員の皆様の益々のご発展とご多幸をご祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。

女性会会長 阿久津貴美



新年明けましておめでとうございます。昨年は年頭に「今年は丑年で良い年になります様に」とお祈りしましたが、皆様方におかれましては、どの様な年でありましたでしょうか。

昨年中は組合役職員の皆様には女性会活動に対しまして格別のご協力とご指導を賜り厚く御礼申し上げます。私も一昨年前に会長選任され、今年六月には早いもので二年をむかえます。その間、会員の皆様と役員の皆様方の心強い後押しと御協力により事業もスムーズに進めることが出来ました。心より深く感謝申し上げます。

女性会での二十一年度の統一テ

マとして、「我が身を守るチェックシート」の記帳をあげており、その記帳率は九〇%を越えております。

大半は女性が記帳しているとの事で、安全・安心な生乳生産に取り組む姿勢が強く見られ、将来の酪農に上手くつながって行くと感じました。

昨年十二月に、組合長を始め職員の方々にご同行頂き全体研修会を実施することが出来ました。早朝からにも関わらず百二十八名と大勢の参加を頂き、バスの中で親睦を図りながら目的地へと向かいました。昼食を都内のホテルで楽しんだ後に、劇団四季「アイダ」を観劇し、しばし夢の世界に誘われ、もう一つの女性会のテーマである「強く 明るく 前向きに」を培えたと感じました。

最後に現在も新型インフルエンザの終息が見えませんが、牛乳をたっぷり飲んで、今年家族全員が元気で過ごせる事を祈願し、新年の挨拶と致します。



地域別説明会

支所毎の地域別説明会を、平成二十一年十二月八日(県南支所)・

九日(宇都宮支所)・十一日(那須高原支所)の三日間で行いました。

開催に先立ち菊池組合長は、総会制への移行、牛乳消費減退等に対する今後の対応、国内バターの在庫が五ヶ月を越え需給対応が厳しさを増してきたこと、年末・年始の処理不可能乳を回避するための全乳哺育の協力要請、来期から導入する乳代手数料・賦課金について理解を求めたいとの挨拶を行いました。その後説明会に入り、平成二十一年度上期決算状況については赤堀専務が説明し、各事業の上半期の実績及び、今後も計画達成に向け事業を展開して行くことを報告致しました。次に藤田生乳販売課長より、平成二十一年度

生乳計画生産の状況について報告しました。

平成二十二年度乳代精算方法変更及び事業賦課金設定については大平総務課長より、手数料・賦課金についての目的と考え方について説明し、具体的な控除単価については、二十二年度事業計画策定に合わせて決定していくことに理解を求めました。

〈主な質疑〉

- ・生乳計画生産の超過・未達の取り扱いについて
- ・手数料・賦課金等の可視化について
- ・乳価値上げと生乳需給緩和の現状認識について
- ・人件費の減少要因について
- ・手数料方式導入に伴う剰余金及び内部留保等の見通しについて
- ・職員の資質向上について

部課だより

生乳販売課

十一月度の生乳生産量は前年比一〇〇・九%(一七、二四七トン)となり、関東においては前年比一〇〇・一%となりました。

また、全国では九九・七%(北海道一〇一・三%、都府県九八・二%)の生乳生産量でした。支所別生乳生産量・乳質成績はグラフのとおりとなり、出荷組合員数は五六八戸(前年五九〇戸)、学校・公共団体四戸(前年五戸)でした。

関東の生乳生産量は前年並みで推移しましたが、牛乳の消費が減退しており、飲用牛乳向け数量は前年比(十一月度) 九四・三%(累計九六・〇%)と依然として回復しておりません。その結果、加工率(十一月度)が六・六一%と前年を三・一〇%上回る結果でした。

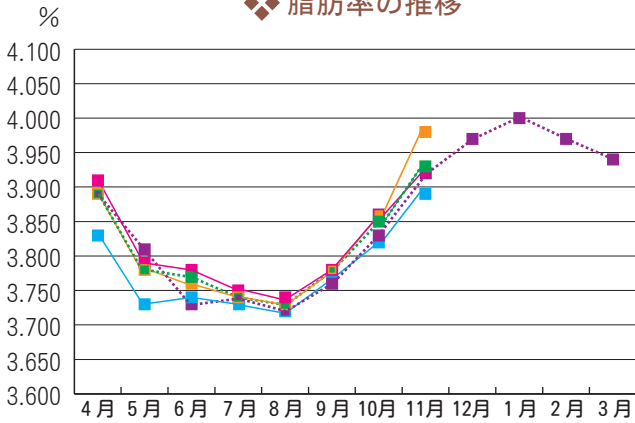
特定乳製品向け(バター・脱脂粉乳)生乳需要については、国際乳製品市況が高騰傾向となり、国産乳製品の需要が徐々に回復し始めているものの、依然として生乳の供給過剰が解消される状況になく、二十一年度の加工原料乳限度数量を上回ることが見込まれております。

十一月度の発酵乳向けは前年比一一二・四%、チーズ向けは一〇〇・〇%、生クリーム向けは一〇〇・九%となりました。

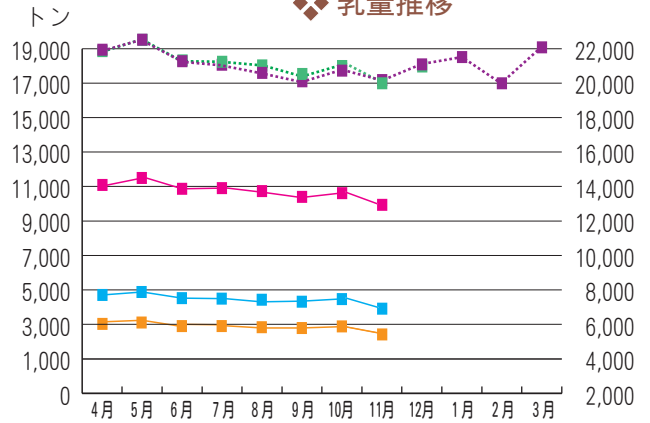
関東生販では、平成二十一年度の販売目標数量のなから特別調整乳数量(一一、〇〇〇トン)を中央酪農会議に返還(都府県各指定団体も同様)したことにより、会員の目標数量の見直しが実施されます。このような状況を再度御認識頂くとともに、諸事情をご理解下さる様お願い致します。



◆ 脂肪率の推移

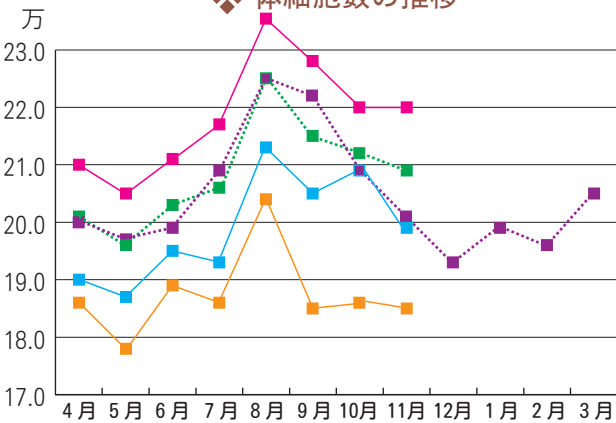


◆ 乳量推移

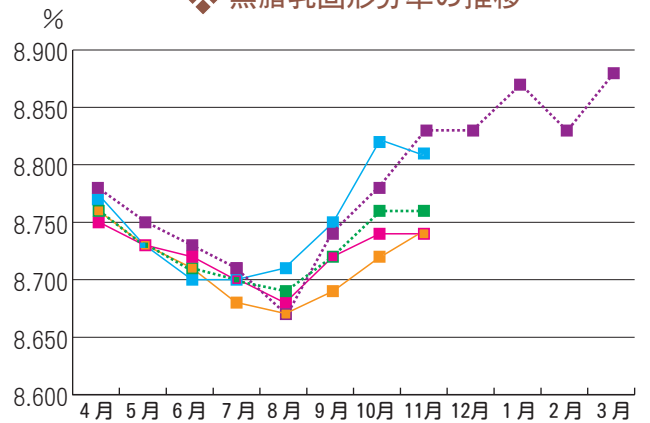


■ 那須高原 ■ 宇都宮 ■ 県南 ■ 平成21年度 ■ 平成20年度

◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



去る十一月十四日(土)から十五日(日)、神奈川県綾瀬市の家畜集合センターにおいて、関東地区ホルスタイン共進会が同改良協会主催により開催されました。審査員には北海道恵庭市の酪農家、中川尚人氏を迎え、関東地区からホルスタイン種九十七頭が集まり、(内、栃木県十六頭)第一部から第四部が未經産、第五部から第八部が経産の合計、八部門で審査されました。主な組合の受賞内容をみると、経産準名誉賞一点、未經産名誉賞一点並びに準名誉賞一点その他、優等賞に四点という素晴らしい成果となりました。受賞されたみなさん誠におめでとうございます。これも偏に平成十七年に開催された「とちぎファームフェスタ二〇〇五」の共進会に出品するにあたり、本県の取り組みとして自県産で臨んだことが、このような成

第十五回

関東地区ホルスタイン

共進会開催される



果(全共効果)につながっているものと確信しております。今年、十月八日から十一日に北海道で開催される第十三回全日本ホルスタイン共進会に向けて弾みをつけたのではないのでしょうか。審査の結果は次頁の通りとなります。



第15回関東地区ホルスタイン共進会上位入賞結果

入賞結果	名 号	出 品 者	出品県
経産名誉賞	シンボル プレット カーレイ	(有)バイオトラスト軽井沢牧場	群馬県
経産準名誉賞	パインツリー クリスマス サード ロイ ET	P-T H R E E	栃木県
未經産名誉賞	KZMR ローゼッタ ロイ ドレーク	梶 村 健 介	栃木県
未經産準名誉賞	ホクリョウ ネリー チャンピオン リズリサ	真岡北陵高等学校	栃木県

栃木県出品牛 入賞結果

出品区分	名 号	出品者・氏名	摘 要	入賞結果
第1部	ホクリョウ ローリングスター メイサ	真岡市下籠谷 真岡北陵高等学校	酪農とちぎ	優等賞3席
第1部	PW エレガンス ステイシー	矢板市塩田 和 氣 輝	箒 根	優等賞1席
第2部	ホクリョウ ネリー チャンピオン リズリサ	真岡市下籠谷 真岡北陵高等学校	酪農とちぎ	準名誉賞
第2部	タクヨウ ロクシー カリプソ	那須塩原市下永田 那須拓陽高等学校	酪農とちぎ	1等賞5席
第3部	ゴールドウィング オブ ムーンリバー ET	鹿沼市みなみ町 鹿沼農業高等学校	栃 酪	2等賞5席
第3部	スマ エコーホルム ドレーク ヒロコ	那須町豊原丙 清 水 時 雄	酪農とちぎ	1等賞5席
第4部	シンボリサイド セプティ マックス	鹿沼市みなみ町 鹿沼農業高等学校	栃 酪	1等賞4席
第4部	KZMR ローゼッタ ロイ ドレーク	市貝町赤羽 梶 村 健 介	酪農とちぎ	名誉賞
第5部	MM インテグ モーラー	那須烏山市大里 松 井 光	酪農とちぎ	1等賞3席
第5部	パインツリー クリスマス サード ロイ ET	宇都宮市古賀志町 P-T H R E E	酪農とちぎ	準名誉賞
第6部	286 タカノハシ ペイトリアーク ジェスロ	日光市大室 鷹 箸 稔	酪農とちぎ	1等賞1席
第6部	プラントツリー AB ダンディー ET	日光市小林 植 木 靖	栃 酪	優等賞1席
第7部	コマバファーム エルピナ ダンディ	宇都宮市古賀志町 駒 場 靖 史	酪農とちぎ	1等賞3席
第7部	パインツリー ネリー ジュラー ミックス フタゴ	那須烏山市小倉 中 山 真 介	酪農とちぎ	1等賞2席
第8部	エスペランサ リブロン アンコール ダーハム	日光市小林 植 木 靖	栃 酪	1等賞3席
第8部	コージー ロング ロイアーロン	市貝町赤羽 梶 村 健 介	酪農とちぎ	優等賞1席 ベストアダー



理事会だより

臨時理事会

協議事項

- (一) 年末年始の出荷抑制対策について
- (二) 開業獣医等の乳代控除手数料について

十二月度理事会

報告事項

- (一) 組合員加入について
- (二) 資金貸付について
- (三) 十二月分生産者支払乳価について
- (四) 地域説明会結果報告について
- (五) 年末手当の支給について
- (六) 職員人事について
- (七) 関東生乳販連情報について

協議事項

- (一) 十一月事業実績について

- (一) 平成二十一年度組合購買利用推進女性研修会実施について

- (二) 平成二十二年度配合飼料・粗飼料及びTMR飼料供給量別利用奨励について
- (三) 平成二十二年自給飼料増産に向けた種子利用推進対策について
- (四) 酪農ヘルパー事業に関する諸規定改正について
- (五) 酪農とちぎアグリサポート年次別事業実施計画について
- (六) 酪農とちぎアグリサポート農作業受託料金について
- (七) 役員定数について
- (八) 役員の補欠選任について
- (九) 役員定数について



お知らせ

職員人事

異動（平成二十二年一月四日）

酪農部次長

兼宇都宮支所ふれあい牧場長

山田 政文

宇都宮支所ふれあい牧場

大根田正志

農業労災保険加入のご案内

組合では皆様の農作業による事故防止の喚起を促すとともに、「農業労働災害保険」の加入を推進しております。補償対象作業の制限はあるものの、万が一の事故に備えご加入下さい。尚、補償内容と加入資格詳細につきましては、支所等にお問合せ下さい。



12月ホクレン初妊牛市場成績

〔単位：頭、千円（税込）〕

市場名	開催日	成立頭数	平均価格	～400	401～450	451～500	501～550	551以上
南北海道	12月4日	87	458	15	16	32	21	3
釧路	12月9日	316	481	16	51	149	79	21
根室	12月10日	530	497	21	68	190	172	79
豊富	12月11日	457	476	18	111	191	119	18
北見	12月16日	380	481	31	81	116	116	36
十勝	12月17・18日	785	510	39	85	188	293	180
合計		2,555	492	140	412	866	800	337
前月		2,608	487	156	486	995	590	381
前年同月		2,517	485	241	463	769	690	354

※上記金額にはE T妊牛価格を含みます。

家畜市場成績

平成21年12月

〔単位：円（税込）〕

市場名	種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均
西那須野 15日	ホルス雄	139	59	49,350	110	26,912
	F 1 雄	73	55	181,650	56,700	130,344
	F 1 雌	74	53	106,050	31,500	66,391
館林 17日	ホルス雄	7	77	30,450	15,750	25,350
	F 1 雄	20	93	213,150	121,800	160,178
	F 1 雌	17	90	145,950	57,750	110,250

